

特定非営利活動法人学生支援ハウスようこそ 2019年度 事業報告

はじめに

・本年度も設立趣旨に掲げた理念のもと、法人の理事・監事・事務局・ハウススタッフが丸となって協働し、ハウスに入居する学生に、安心安全の住居・食事・相談支援等を提供することができた。法人設立4年目を迎え、チーフハウスアテンダント（HA）や日勤体制の検討等、スタッフ体制の充実化を図るとともに、ハウスの環境整備を一層進めた。

・学生支援においては、1人ひとりの学生に丁寧に向き合い、寄り添った。個別に面談する機会を定期的に設け、学生が抱える悩みや要望の把握に努めた。学生の出身施設等との連携を進め、協働で支援する体制を作った。また、卒業年度を迎える学生が複数名いることから、自立に向けた支援や退居の手続きの確認を行った。自然災害の頻発を踏まえ、防災管理担当者や緊急対応マニュアルを策定する等、ハウスの防災体制の強化を進めた。

・財政面では、会員の皆様からの会費・寄付金に支えられ、安定的なハウス運営を行うことができた。東京都共同募金会、中央ろうきん、毎日新聞東京社会事業団から助成を受け、ハウスの環境整備やスタッフ謝金への補てん等に活用し、支援体制の充実を図った。

・中央ろうきんの助成金を用いて、児童養護施設退所後の進学者に関する調査を実施した。この調査により、進学者への生活支援の必要性（ニーズ）が明らかになるとともに、ようこそへの入居希望の問い合わせが増え、次年度以降の入居契約へとつながった。

・自立援助ホーム化に向けた取り組みについては、学習会を複数回開催し、支援の実際、実務の実際について検討を進めた。制度化に関する行政への要望については、児童相談所等の移管時期と重なり、不透明な部分が大きいため、顕著な進展は見られなかった。今後行政への働きかけ等、持続可能な組織運営に向けた取り組みを継続していく。

1. 学生生活支援のためのシェアハウス運営事業（数字は2019年12月末日現在）

① 学生の入居状況

- ・2016年度より継続1名、2017年度より継続2名、2018年度より継続1名
- ・2019年4月に1名入居

② 宿泊従事者の状況

- ・毎日、スタッフがハウスに宿泊し食事提供・環境整備・相談援助等を行った。
- ・ハウスアテンダント\*（HA）：4名

\*学生への面談・相談等を通して学生支援の中心を担うスタッフ

- ・宿泊スタッフ：8名（そのうち、宿泊対応する理事・事務局員：3名）

③ 家賃の改定

・2019年1月より、ハウスの家賃を月額50,000円から30,000円に改定した。

④ **ハウスの環境整備**

- ・自転車置き場を整備した。
- ・防災対策の必要から、1階及び2階サニタールームに窓格子を設置した。
- ・ハウス内のダイニングルーム、リビングルームの備品を整備し、学生が憩うスペースとして快適な居住空間を創造した。必要に応じて建物の修繕を行った。
- ・防災用品の整備に努めた。
- ・業者によるエアコンの定期清掃を実施した。

⑤ **食事の提供**

・毎日、宿泊従事者が、学生に手作りの温かい食事（朝夕食）を提供し、学生と語らいの時間を持った。調理ボランティアとして2名の方から協力を得た。

⑥ **個別面談の実施**

- ・学生一人ひとりに対して定期的な個別面談を実施し、生活・学業等の相談の機会を設けた。
- ・必要に応じて、施設職員・ハウスのスタッフ・学生との3者面談を実施した。

⑦ **宿泊スタッフ会議、ハウスアテンダント（HA）会議の開催**

・宿泊スタッフによる、ハウスの学生支援に関する会議を毎月開催し、スタッフ間で情報を共有するとともに実際の支援のあり方を協議した。また、HA4名による会議も適宜開催し、学生に対する個別支援のあり方を検討した。

⑧ **ハウス会議の開催**

・学生とHAを中心にハウス内の生活・ルール等に関する会議を4回実施した。

⑨ **ハウス行事の開催**

・学生の歓迎会、誕生会、忘年会等を実施し学生同士の親睦を深めた。

⑩ **寄付・寄贈品**

・多数の団体、個人様から寄付があった。季節の果物、日用品等を寄贈していただいた。また、新鮮な有機野菜や肉等を定期的に寄贈いただいた。

⑪ **退居者支援（アフターケア）**

・誕生日に祝い品を送る、退居先に訪問する、災害時に安否確認の連絡を取るなどの方法により、退居者への見守り・助言の支援を継続した。

2. **調査研究・広報啓発に関する事業**

① **講演会・シンポジウム等の開催**

若者支援に関する一般公開の講演会やシンポジウムを実施し、ようこそ取り組みを踏まえた、学生支援の必要性を訴えた。

・基調講演とシンポジウム

日時：2019年3月10日

講師：宮本みち子氏（放送大学客員教授・千葉大学名誉教授）

主題：若者支援はなぜ必要か——若年女性にフォーカスして

シンポジウム：庄司理事長、湯澤副理事長、山本理事、社会的養護経験者

- ・招待講演への出講（ソーシャルジャスティス基金アドボカシーカフェ）

日時：2019年7月23日

講師：庄司洋子氏（学生支援ハウスようこそ理事長）

主題：家族と暮らせない子どもをひとりぼっちにしないために——児童養護施設退所者等のサポートを

## ② 学習会の開催

ハウスの就学型自立援助ホーム化に向けた学習会を、他機関との連携のもと、2度にわたって実施し、制度化に必要な事柄に関する情報共有・意見交換を行った。

- ・就学型自立援助ホームへの制度化に向けた学習会（第1回）

日時：2019年5月13日

講師：坪井節子氏（カリヨン子どもセンター理事長）

- ・就学型自立援助ホームへの制度化に向けた学習会（第2回）

日時：2019年11月14日

講師：羽柴加寿代氏・渡辺伊佐雄氏（青少年と共に歩む会／憩いの家）

## ③ 研修会等への参加

学生支援の専門性を高めるために、理事・スタッフを中心に研修会に参加する機会を持った。特に宿泊スタッフのみなさんに様々な研修会に参加していただいた。

- ・ブリッジフォースマイル・コエールへの参加（2019年7月21日）
- ・全国自立援助ホーム協議会全国大会への参加（2019年10月8、9日）
- ・食品衛生講座への参加（2019年12月3日）

## ④ 高校卒業後に進学する児童の生活支援に関する調査（ニーズ調査）の実施

中央ろうきん「若者応援ファンド」の助成金を活用し、関東・中部地区の児童養護施設を対象にした、高校卒業後に進学する児童に関する実態調査を実施した。その結果、施設退所者のうち、3割～4割の者が進学、および進学を希望していることがわかった。また同時にようこその家賃の値下げ（5万円から3万円）についても周知した結果、入居希望の問い合わせが多数寄せられた。ハウスの見学を実施したうえで、次年度の入居につなげることができた。

- ・日時：2019年6月25日
- ・対象：関東・中部地区の児童養護施設284か所
- ・回収：117施設より回答、回収率41.2%

## ⑤ 自治体・社会福祉協議会との連携

ハウス所在地の自治体が開催する居住支援協議会、および社会福祉協議会が開催する子ども若者支援のネットワークの会議に、理事長が定期的に参加し、地元自治体・社協との連携を進めた。

- ・地元自治体の居住支援協議会への参加
  - ・地元社協の子ども・若者支援のネットワーク会議への参加
- ⑥ **メールマガジンの発行、ホームページの更新**
- ・メールマガジンを3回発行し、ようこそその活動およびハウス運営に関する情報発信を行った。ホームページには季節ごとの催しを掲載し、随時更新することによって、活動の広報に努めた。
- ⑦ **メディアの取材**
- ・東京新聞、読売新聞が、総会時のシンポジウム開催に関する記事を掲載した。
  - ・『BIG ISSUE 日本版』編集部の取材を受け（9月18日）、児童養護施設等退所者の置かれた状況とようこそその取り組みを紹介した。
- ⑧ **見学・相談の対応**
- ・入居を希望・検討する児童養護施設関係者や、厚生労働省関係者、自治体職員、会員等の見学・相談に応じ、ようこそその活動への理解・協力を求めた。

### 3. 法人に関する事項

- ① **各種会議の開催**
- ・理事会、事務局会議等を定期的に行い、法人の安定的な運営に努めた。
- ② **理事の増員**
- ・樋口裕子弁護士を理事に迎え、学生の法的な側面のサポートを強化した。
- ③ **入居契約書および「きまりとやくそく」の改定**
- ・入居学生の退居について協議し、入居契約書および「きまりとやくそく」の退居に関する文言を改定した。あわせて退居に関する書式を作成し、退居までの手続きを確認した。
- ④ **謝金規程の改定**
- ・宿泊スタッフの謝金に関する規程を検討し、改定することとした。
- ⑤ **助成金の活用**
- ・東京都共同募金会の助成を受け、ハウスの改修工事を実施し快適な居住環境の整備を行った。
    - 事業名：学生支援ハウス防災等環境整備事業 配分金額：3,070,000円
  - ・中央ろうきん若者応援ファンドの助成を受け、スタッフの謝金等に活用した。
    - 事業名：学生支援ハウスにおけるスタッフの確保定着・資質向上のための雇用体制整備事業 助成金額：2,000,000円
- ⑥ **自立援助ホーム化に関する行政訪問**
- ・11月13日に東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課を訪問し、自立援助ホームの認可に関して質問・要望を行った。都からは、自立援助ホームの認可は特別区に移管された旨の回答があり、進展が見られなかった。